

布哇教育會編纂

日本語讀本

高等科用

卷二

第一課	東半球(一)	九州地方(一)	第五十三課	濱田彌兵衛
第二課	東半球(二)	九州地方(二)	第五十四課	鏡
第三課	東半球(三)	地人の關係	第五十五課	憲法發布
第四課	埃及及び希臘の古代文明	水と風景	第五十六課	伊藤博文
第五課	アレキサンダー大王	元祿時代の文華	第五十七課	道徳と法律
第六課	戊申詔書	國學の勃興	第五十八課	善良なる市民
第七課	日本古武士の意氣	讀書	第五十九課	明治の二大戦役
第八課	室町時代の文藝美術	ニユートン	第六十課	閉塞隊の出發に臨みて別を兄に告ぐ
第九課	戰國時代	航空機の發明	第六十一課	朝鮮(一)
第十課	足利氏と外國交通	無線電信と無線電話	第六十二課	朝鮮(二)
第十一課	阿閉掃部	北海道及び樺太(一)	第六十三課	明治大正の盛運
第十二課	自立自營	北海道及び樺太(二)	第六十四課	明治大帝の崩御
第十三課	新聞紙	四聖(一)	第六十五課	古社寺と國寶
第十四課	四國地方	四聖(二)	第六十六課	世界の航路
第十五課	四季の折々	愛	第六十七課	關稅
第十六課	月光の曲	玄奘	第六十八課	俳句と川柳
第十七課	奮闘	公正	第六十九課	ビット
第十八課	ゴルドン將軍	黃昏	第七十課	滿洲及び關東州(一)
第十九課	職業	ビクトリヤ女帝	第七十一課	滿洲及び關東州(二)
第二十課	紹介狀	吉田松陰	第七十二課	歐米人の日本人觀
第二十一課	信長と秀吉	幕末の狀態	第七十三課	ルーサー
第二十二課	江戸幕府	興國の民	第七十四課	水の力
第二十三課	江戸時代の文化	手紙	第七十五課	修養
第二十四課	伊達政宗	婚姻届	第七十六課	マツキンレー
第二十五課	禮儀	大政奉還と明治維新	第七十七課	名數
第二十六課	西洋雜話	臺灣地方	第七十八課	人類と自然

目録

日本語讀本 高等科用卷二

第一課 東半球(一)

世界六大洲の中、^あ亞細亞洲・^お大洋洲・^よ歐羅巴洲・^あ亞弗利加洲の四大洲は東半球に屬す。西半球の發見は十六世紀に在りしを以て、東半球は一に舊世界といひて、西半球の新世界に對す。

亞細亞は東半球の北部に在り。北は北氷洋に、東は太平洋に、南は印度洋に臨み、西は歐羅巴に續き、又僅にスエズ地峽によりて亞弗利加に連る。面積は世界陸地の凡そ三分の一を占め、六大洲中最も大なり。

馳 科

服せすんば止まざらんとす。天にとゞろく雷霆も、地を
 ゆるがす地震も、彼等は其の原因と理由とを究明して、
 己が支配下に置かんとす。地の底にもぐり、天の上に馳
 せ、火水風土、一として其等の支配力の及ばざるはなき
 を期す。近世の科學的文明は誠に自然を征服して得た
 る分捕品たるなり。自然はこゝに至りて、人類の従順な
 る奴隸たり。

日本語讀本 高等科用 卷二一終

高二

1979. 21. 218

大正十年五月廿五日印刷
 大正十年五月廿八日發行

高等科用卷二
 定價金

編纂者 布哇教育會
 發行所 伏見宮記念獎學會
 版權所有者

代表者 内田重吉

東京市下谷區二長町一番地

印刷者 井上源之丞

東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場

布哇教育會編纂教科書
 大正 年改訂老讀本
 高等讀本 卷 壹 九十五仙
 卷 貳 壹 弗